

12. 自宅での受動喫煙と社会的要因の関連：NIPPON DATA2010

研究協力者 Minh Nguyen (滋賀医科大学リーディング大学院 大学院生)
研究分担者 西 信雄 (医薬基盤・健康・栄養研究所国際栄養情報センター センター長)
研究分担者 門田 文 (滋賀医科大学アジア疫学研究センター 特任准教授)
研究分担者 奥田奈賀子 (人間総合科学大学人間科学部健康栄養学科 教授)
研究分担者 有馬 久富 (福岡大学医学部衛生・公衆衛生学教室 教授)
研究分担者 藤吉 朗 (滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 准教授)
研究協力者 中野 恭幸 (滋賀医科大学内科学講座呼吸器内科 准教授)
研究分担者 大久保孝義 (帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座 教授)
研究分担者 上島 弘嗣 (滋賀医科大学アジア疫学研究センター 特任教授)
研究分担者 岡山 明 (生活習慣病予防研究センター 代表)
研究代表者 三浦 克之 (滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 教授)
NIPPON DATA2010 研究グループ

【背景および目的】

受動喫煙が非喫煙者の長期予後に影響を及ぼすことが報告されている。非喫煙者の自宅での受動喫煙と社会的要因の関連を明らかにする。

【方法】

全国から無作為抽出された300地区で実施された2010年の国民健康・栄養調査に参加し、NIPPON DATA2010調査に参加同意した20歳以上の非喫煙者2288人(生涯非喫煙者1763人、禁煙者525人)のデータを分析した。男女別に、就業状況、婚姻状況、教育年数、等価平均支出の受動喫煙の多変量調整オッズ比および95%信頼区間をロジスティックモデルで算出した。調整因子は、年齢、過去喫煙の有無、持ち家の有無とした。

【結果】

女性では、就労者は非就労者と比べると受動喫煙リスクが1.4倍高く(調整オッズ比1.44; 95%信頼区間, 1.06-1.96)、独身者は既婚者と比較して受動喫煙リスクが低いことが明らかになった(調整オッズ比0.53; 95%信頼区間,0.37-0.77)。また、教育年数9年以下群の受動喫煙リスクは、教育年数13年以上群の2.4倍であった(調整オッズ比2.37; 95%信頼区間, 1.49-3.78)。男性では統計的に有意な関連を認めなかった。

【結論】

非喫煙者の受動喫煙リスクを検討した結果、女性では、就労者は非就労者と比べると受動喫煙リスクが1.4倍高く、また、独身者は既婚者と比較して受動喫煙リスクが低いことが明らかになった。

Nguyen M et al. Passive Smoking at Home by Socioeconomic Factors in a Japanese Population: NIPPON DATA2010. *J Epidemiol* 2018; 28(Suppl 3): S40-45.